



平成25年 1 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成24年 9 月 5 日

上 場 会 社 名 株式会社きんえい 上場取引所 大
 コー ド 番 号 9636 URL http://www.kin-ei.co.jp
 代 表 者 （役職名） 取締役社長 （氏名） 丸山 隆司
 問合せ先責任者 （役職名） 取締役経理部長 （氏名） 小原 基生 （TEL）(06) 6632-4553
 四半期報告書提出予定日 平成24年 9 月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成25年 1 月期第 2 四半期の業績（平成24年 2 月 1 日～平成24年 7 月31日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
25年 1 月期第 2 四半期	1,509	△13.9	△5	—	△10	—	△22	—
24年 1 月期第 2 四半期	1,752	0.2	61	34.5	55	5.1	△164	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年 1 月期第 2 四半期	△0 81	—
24年 1 月期第 2 四半期	△5 88	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
25年 1 月期第 2 四半期	5,357	1,625	30.3
24年 1 月期	5,604	1,677	29.9

（参考） 自己資本 25年 1 月期第 2 四半期 1,625百万円 24年 1 月期 1,677百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年 1 月期	—	0 00	—	1 00	1 00
25年 1 月期	—	0 00			
25年 1 月期(予想)			—	1 00	1 00

（注） 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年 1 月期の業績予想（平成24年 2 月 1 日～平成25年 1 月31日）

（％表示は、通期は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	3,000	△10.9	△20	—	△30	—	△50	—	△1 79

（注） 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年1月期2Q	28,210,000株	24年1月期	28,210,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

25年1月期2Q	298,083株	24年1月期	291,834株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年1月期2Q	27,915,029株	24年1月期2Q	27,921,153株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「(4)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表作成の作製に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報等	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(7) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を支えとして、わずかながらも回復傾向にありましたが、海外経済の低迷、長引く円高、電力供給の制約など不安要素も多く、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

この間当社におきましては、事業全般に亘る顧客満足度のより高いサービスの提供と部門別業績管理の徹底をさらに推進し、集客と収入の確保に努めました。

なお、当社を取り巻く事業環境の著しい変化に対応するため、当事業年度開始時において業務組織の変更を実施いたしました。アポロ、ルシアス両ビルをより一体的に運営、管理し、業務効率の向上を図るため、ビル事業を担当する各部を整理統合するとともに、娯楽場の運営業務をビル事業担当部から劇場事業担当部へ移管し、劇場と娯楽場の相乗的な収益向上を推進する体制といたしました。

これに伴い、報告セグメントにおきましても、従来は「シネマ事業」「不動産賃貸事業」「遊戯場事業」の3セグメントに区分しておりましたが、当事業年度より「シネマ・アミューズメント事業」、「不動産事業」の2セグメントに集約しております。また、前第2四半期累計期間のセグメント情報につきましても、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものにより記載しております。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業におきましては、映画では“テルマエ・ロマエ”“BRAVE HEARTS 海猿”“名探偵コナン”“ドラえもん”“ライアーゲーム-再生-”“ダーク・シャドウ”“T I M E / タイム”“わが母の記”などの話題作品を上映し、また全スクリーンへの導入を完了したデジタル映写機により、3D作品として“アメイジング・スパイダーマン”“メン・イン・ブラック 3”などを上映して観客誘致に努めましたが、全般に強力な集客力のある作品が数少なく、一方、娯楽場におきましては、アポロ4階ゲームセンターの改装期間中の休業による減収などがあり、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して17.1%減の627,260千円となり、営業原価控除後では38,631千円の営業総損失（前年同期は3,375千円の営業総損失）となりました。

不動産事業部門におきましては、アポロ、ルシアス両ビルの主要箇所にデジタルサイネージを設置し、映画予告編やビル内の店舗情報などを映像と音響により発信するとともに、アポロビル開業40周年の記念イベントを開催するなど積極的な集客に努めました。またビル賃貸収入の確保に向けて、精力的にテナント誘致活動を推進いたしましたが、テナント入退居に伴う工事期間中の減収の発生や、他のオフィスビルとの競合が激化する中、ルシアスビル事務所フロアの空室率の改善が進まなかったことなどから、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこの部門全体の収入合計は、前年同期に比較して11.4%減の882,428千円となり、営業原価控除後では、前年同期に比較して14.0%減の194,794千円の営業総利益となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高合計は前年同期に比較して13.9%減の1,509,689千円となり、費用の面におきましても、全社において業績管理を徹底し、諸経費全般に亘って鋭意削減に努めましたが、遺憾ながら各セグメントとも大幅な減収となりましたため、営業損失は5,742千円（前年同期は61,055千円の営業利益）となり、経常損失は10,590千円（前年同期は55,382千円の経常利益）、四半期純損失は22,706千円（前年同期は164,293千円の四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第2四半期会計期間末における総資産は、差入保証金の減少等により前期末に比較して247,562千円減少し、5,357,117千円となりました。負債は借入金返済等により、前期末に比較して195,726千円減少し、3,731,501千円となりました。また、純資産は、配当金の支払い等により利益剰余金が減少したため、前期末に比較して51,835千円減少し1,625,616千円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、投資活動及び財務活動による支出が営業活動による収入を上回ったため、前期末に比較して516千円(0.7%)減少し、当期末は78,405千円となりました。

また、当期末における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動で得られた資金は、税引前当期純損失を計上したものの、減価償却費等の計上があったため235,024千円の収入(前年同期は234,044千円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で使用した資金は、有形固定資産の取得や短期貸付金の増加により130,618千円の支出となりました。前年同期と比較しますと、短期貸付金の増加額が前年同期を上回ったこと等により19,742千円支出額が増加しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で使用した資金は、長期借入金の返済等により104,922千円の支出となりました。前年同期と比較しますと、配当金の支払額の減少により26,940千円支出額が減少しております。

(4) 業績予想に関する定性的情報

平成25年1月期の通期業績予想につきましては、平成24年8月31日に発表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

当第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

4. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 1 月 31 日)	当第 2 四半期会計期間 (平成24年 7 月 31 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	78,921	78,405
売掛金	101,321	89,961
商品	3,319	3,682
その他	178,852	296,985
貸倒引当金	△230	△350
流動資産合計	362,185	468,685
固定資産		
有形固定資産		
建物 (純額)	2,841,469	2,696,413
機械及び装置 (純額)	90,518	84,364
工具、器具及び備品 (純額)	41,358	53,211
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	—	111
有形固定資産合計	4,097,095	3,957,849
無形固定資産	16,986	14,573
投資その他の資産		
差入保証金	1,094,340	884,340
その他	34,073	31,669
投資その他の資産合計	1,128,413	916,009
固定資産合計	5,242,494	4,888,432
資産合計	5,604,679	5,357,117
負債の部		
流動負債		
買掛金	75,537	98,397
1年内返済予定の長期借入金	200,920	350,920
未払法人税等	—	3,195
賞与引当金	10,800	11,100
その他	483,781	402,225
流動負債合計	771,039	865,838
固定負債		
長期借入金	993,340	767,880
退職給付引当金	60,199	62,297
受入保証金	1,661,675	1,611,054
資産除去債務	268,156	270,183
その他	172,818	154,247
固定負債合計	3,156,189	2,865,662
負債合計	3,927,228	3,731,501

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 1 月31日)	当第 2 四半期会計期間 (平成24年 7 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,191,429	1,140,805
自己株式	△101,817	△103,361
株主資本合計	1,677,968	1,625,799
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△516	△183
評価・換算差額等合計	△516	△183
純資産合計	1,677,451	1,625,616
負債純資産合計	5,604,679	5,357,117

(2) 四半期損益計算書
第 2 四半期累計期間

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成23年 2 月 1 日 至 平成23年 7 月31日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成24年 7 月31日)
売上高	1,752,436	1,509,689
営業原価	1,529,347	1,353,526
営業総利益	223,089	156,162
一般管理費	162,033	161,905
営業利益又は営業損失 (△)	61,055	△5,742
営業外収益		
受取利息	1,540	795
受取配当金	75	69
営業休止補償金	5,909	—
違約金収入	—	2,666
雑収入	311	2,445
営業外収益合計	7,835	5,975
営業外費用		
支払利息	12,172	10,814
雑支出	1,337	9
営業外費用合計	13,509	10,823
経常利益又は経常損失 (△)	55,382	△10,590
特別損失		
固定資産除却損	1,818	24,676
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	136,012	—
耐震診断費用	13,550	—
特別損失合計	151,380	24,676
税引前四半期純損失 (△)	△95,998	△35,266
法人税、住民税及び事業税	28,900	2,100
法人税等調整額	39,395	△14,660
法人税等合計	68,295	△12,560
四半期純損失 (△)	△164,293	△22,706

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成23年 2 月 1 日 至 平成23年 7 月 31 日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成24年 7 月 31 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△95,998	△35,266
減価償却費	182,591	186,035
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	903	2,098
受取利息及び受取配当金	△1,615	△864
支払利息	12,172	10,814
固定資産除却損	1,818	24,676
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	136,012	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△8,925	11,359
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△12,359	19,877
仕入債務の増減額 (△は減少)	17,595	22,859
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	85,711	1,835
その他	△15,752	△3,128
小計	302,155	240,297
利息及び配当金の受取額	1,431	799
利息の支払額	△12,633	△11,319
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△56,908	5,246
営業活動によるキャッシュ・フロー	234,044	235,024
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△69,366	△124,461
無形固定資産の取得による支出	△2,003	△4,044
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△12,010	△138,609
差入保証金の回収による収入	53,700	210,000
受入保証金の増減額 (△は減少)	△79,581	△50,621
その他	△1,614	△22,881
投資活動によるキャッシュ・フロー	△110,875	△130,618
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△75,460	△75,460
配当金の支払額	△55,846	△27,918
その他	△556	△1,544
財務活動によるキャッシュ・フロー	△131,862	△104,922
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△8,693	△516
現金及び現金同等物の期首残高	125,421	78,921
現金及び現金同等物の四半期末残高	116,727	78,405

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(平成23年2月1日から平成23年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	756,695	995,741	1,752,436	—	1,752,436
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	756,695	995,741	1,752,436	—	1,752,436
セグメント利益又は損失(△)	△3,375	226,464	223,089	△162,033	61,055

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(平成24年2月1日から平成24年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	627,260	882,428	1,509,689	—	1,509,689
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	627,260	882,428	1,509,689	—	1,509,689
セグメント利益又は損失(△)	△38,631	194,794	156,162	△161,905	△5,742

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、当事業年度開始時において組織変更を行いました。内容は従来の不動産賃貸事業のうち、アポロビル、ルシアスビルをより一体的に運営、管理することを目的にアポロ事業部、ルシアス事業部とテナントリーシング業務を行うビル企画部を統合し不動産事業部として再編するとともに、従来アポロ事業部が所管していた遊戯場等事業のうち、ゲームセンターの運営業務をよりシナジー効果の発揮を期待できるシネマ事業部に移管しシネマ・アミューズメント事業部とするものであります。報告セグメントにおきまして、従来は「シネマ事業」、「不動産賃貸事業」、「遊戯場事業」の3セグメントとしておりましたが、第1四半期会計期間より「シネマ・アミューズメント事業」、「不動産事業」の2セグメントに集約しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものにより記載しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象
該当事項はありません。